

「中央区環境行動計画2018」の評価基準

本計画を着実に推進するため、平成31年度以降、5つの基本目標に対する総合評価をそれぞれ実施するにあたり、「第3章 3-3 指標」における「個別指標」を活用した評価方法を検討する。

パターン1・基本型

表1 個別指標の採点基準

進捗状況	点数(4点満点)
目指す方向に対し、順調に取組が進んでいる。	4点
目指す方向に対し、概ね順調に取組が進んでいる。	3点
目指す方向に対し、取組がやや不十分である。	2点
目指す方向に対し、取組が不十分である。	1点

評価点の平均値により、基本目標に対する総合評価を行う。



表2 基本目標の総合評価基準

平均値の範囲	評価
$3.2 \leq \text{平均値} \leq 4.0$	A
$1.6 < \text{平均値} < 3.2$	B
$\text{平均値} \leq 1.6$	C

※前回からの修正点

①表1の点数を細分化する。

「5点・3点・1点」の3段階から「4点・3点・2点・1点」の4段階とする。

(取組が不十分→やや不十分、不十分)

目指す方向に対し、順調に取組が進んでいる。	5点	目指す方向に対し、順調に取組が進んでいる。	4点
目指す方向に対し、概ね取組が進んでいる。	3点	目指す方向に対し、概ね順調に取組が進んでいる。	3点
目指す方向に対し、取組が不十分である。	1点	目指す方向に対し、取組がやや不十分である。	2点
		目指す方向に対し、取組が不十分である。	1点

②評価実施者を明確にする。

各項目を所管する課において、担当を一次評価者、係長を二次評価者、課長を最終評価者とし、評価シート(書式は再検討中)にそれぞれの評価欄を設ける。

評価	●点	→	最終評価(課長)	●点
			二次評価(係長)	●点
			一次評価(担当)	●点

なお、評価の項目が複数ある場合、目標達成に向け、予め重点項目を決めておき、その成果に対する「重み付け評価」を行うことがある。

「重み」の設定にあたっては、重要度に関するアンケートを行い、「重み」の数値を算出する方法がある。

※重み付け評価とは

評価項目ごとに重みを付けてその合計点で評価する手法で、重みの大きい項目ほど重要性が高いことを意味する。重みの設定方法は別紙で説明

パターン2・重み付け評価

表1 個別指標の採点基準(パターン1と同じ)

進捗状況	点数(4点満点)
目指す方向に対し、順調に取組が進んでいる。	4点
目指す方向に対し、概ね順調に取組が進んでいる。	3点
目指す方向に対し、取組がやや不十分である。	2点
目指す方向に対し、取組が不十分である。	1点

「重み×点数」の合計値により、基本目標に対する総合評価を行う。

重みの計算例は次項で説明



表2-2 基本目標の総合評価基準

合計値の範囲	評価
$3.2 \leq \text{合計値} \leq 4.0$	A
$1.6 < \text{合計値} < 3.2$	B
$\text{合計値} \leq 1.6$	C

1 重みの計算例

(例1) オール4点満点の場合

基本目標4 安全安心な社会

個別指標		重み	パターン1 点数	パターン2 重み×点数
1	遮熱性舗装整備率	0.13	4	0.51
2	公園・児童遊園等の整備	0.11	4	0.44
3	街路樹の整備	0.09	4	0.36
4	水辺環境等の整備	0.07	4	0.29
5	区施設の緑化推進	0.05	4	0.22
6	自動車排ガス・騒音・振動調査	0.04	4	0.15
7	低騒音舗装整備率	0.02	4	0.07
8	大気汚染調査	0.18	4	0.73
9	河川水質調査	0.16	4	0.65
10	水生生物の生息状況	0.15	4	0.58
合計		1	40	4.00

パターン1 平均値→ 4

パターン1 平均値4→評価A

パターン2 合計値4→評価A

(例2) 比較的重みの高い項目が4点満点の場合

基本目標4 安全安心な社会

個別指標		重み	パターン1 点数	パターン2 重み×点数
1	遮熱性舗装整備率	0.13	4	0.51
2	公園・児童遊園等の整備	0.11	4	0.44
3	街路樹の整備	0.09	4	0.36
4	水辺環境等の整備	0.07	1	0.07
5	区施設の緑化推進	0.05	1	0.05
6	自動車排ガス・騒音・振動調査	0.04	1	0.04
7	低騒音舗装整備率	0.02	1	0.02
8	大気汚染調査	0.18	4	0.73
9	河川水質調査	0.16	4	0.65
10	水生生物の生息状況	0.15	4	0.58
合計		1	28	3.45

パターン1 平均値→ 2.8

パターン1 平均値2.8 →評価B

パターン2 平均値3.45 →評価A

(例3) 比較的重みの高い項目が1点の場合

基本目標4 安全安心な社会

個別指標		重み	パターン1 点数	パターン2 重み×点数
1	遮熱性舗装整備率	0.13	1	0.13
2	公園・児童遊園等の整備	0.11	1	0.11
3	街路樹の整備	0.09	1	0.09
4	水辺環境等の整備	0.07	4	0.29
5	区施設の緑化推進	0.05	4	0.22
6	自動車排ガス・騒音・振動調査	0.04	4	0.15
7	低騒音舗装整備率	0.02	4	0.07
8	大気汚染調査	0.18	1	0.18
9	河川水質調査	0.16	1	0.16
10	水生生物の生息状況	0.15	1	0.15
合計		1	22	1.55

パターン1 平均値→ 2.2

パターン1 平均値2.2 →評価B

パターン2 合計値1.55→評価C

※(例2)(例3)のように、重みのある項目の取組状況によって、パターン2による評価が大きく左右される場合がある。

2 既存のデータを用いた重み

①アンケート結果の活用

「重み」の設定を前提としたアンケートを実施していないため、昨年度の区民・事業者向けアンケート結果を活用した例を次に示す。「重み」と「個別指標」を内容的に関連づけた計算を行っているが、「重み」の個数が少ないため、重複して乗じている。重み7「空気がきれいなまち」は、個別指標10「大気汚染調査」と個別指標2「自動車排ガス・騒音・振動調査」に、重み5「花とみどりが豊かなまち」は、個別指標6「公園・児童遊園等の整備」と5「街路樹の整備」に、重み4「川や海がきれいなまち」は、個別指標9「河川水質調査」と8「水生生物の生息状況」にそれぞれ重複している。

アンケート結果による重み

基本目標4 安全安心な社会

項目（選択肢）	備考（設問）	回答数	重み
7 空気がきれいなまち	まちのイメージ	625	0.25
6 路面温度の上昇を抑制する道路の整備	区の重要な施策	532	0.21
5 花とみどりが豊かなまち	まちのイメージ	511	0.18
4 川や海がきれいなまち	まちのイメージ	481	0.14
3 建物や敷地の緑化に対する助成制度	区の重要な施策	313	0.11
2 騒音がない静かなまち	まちのイメージ	212	0.07
1 水辺とのふれあいができるまち	まちのイメージ	162	0.04

重みの計算（個別指標）

基本目標4 安全安心な社会

個別指標	重み	点数 (4点満点)	重み×点数
10 大気汚染調査	0.25	4	1.00
9 河川水質調査	0.14	4	0.56
8 水生生物の生息状況	0.14	4	0.56
7 遮熱性舗装整備率	0.21	4	0.84
6 公園・児童遊園等の整備	0.18	4	0.72
5 街路樹の整備	0.18	4	0.72
4 水辺環境等の整備	0.04	4	0.16
3 区施設の緑化推進	0.11	4	0.44
2 自動車排ガス・騒音・振動調査	0.25	4	1.00
1 低騒音舗装整備率	0.07	4	0.28
	1.57	4.00	6.28

②予算額に基づく重み

平成30年度の予算額と指標の個数はほぼ一致するが、個別指標3「区施設の緑化推進」のように、内容的に関連性のある「重み」が見当たらないケースがあり、重み5「街路樹の整備」の数値をあえて乗じている。

予算額による重み

基本目標4 安全安心な社会

個別指標	平成30年度 予算額(千円)	重み	備考
9 公園・児童遊園等の整備	1,455,433	0.20	
8 低騒音舗装整備率	202,172	0.18	
7 遮熱性舗装整備率	154,611	0.16	
6 水辺環境等の整備	234,598	0.13	
5 街路樹の整備	62,380	0.11	
4 大気汚染調査	6,914	0.09	
3 自動車排ガス・騒音・振動調査	4,318	0.07	
2 水生生物の生息状況	4,709	0.04	
1 河川水質調査	2,245	0.02	

重みの計算（個別指標）

基本目標4 安全安心な社会

個別指標	重み	点数 (4点満点)	重み×点数
10 大気汚染調査	0.09	4	0.36
9 河川水質調査	0.02	4	0.08
8 水生生物の生息状況	0.04	4	0.16
7 遮熱性舗装整備率	0.16	4	0.64
6 公園・児童遊園等の整備	0.20	4	0.80
5 街路樹の整備	0.11	4	0.44
4 水辺環境等の整備	0.13	4	0.52
3 区施設の緑化推進	0.11	4	0.44
2 自動車排ガス・騒音・振動調査	0.07	4	0.28
1 低騒音舗装整備率	0.18	4	0.72
	1.11	4.00	4.44